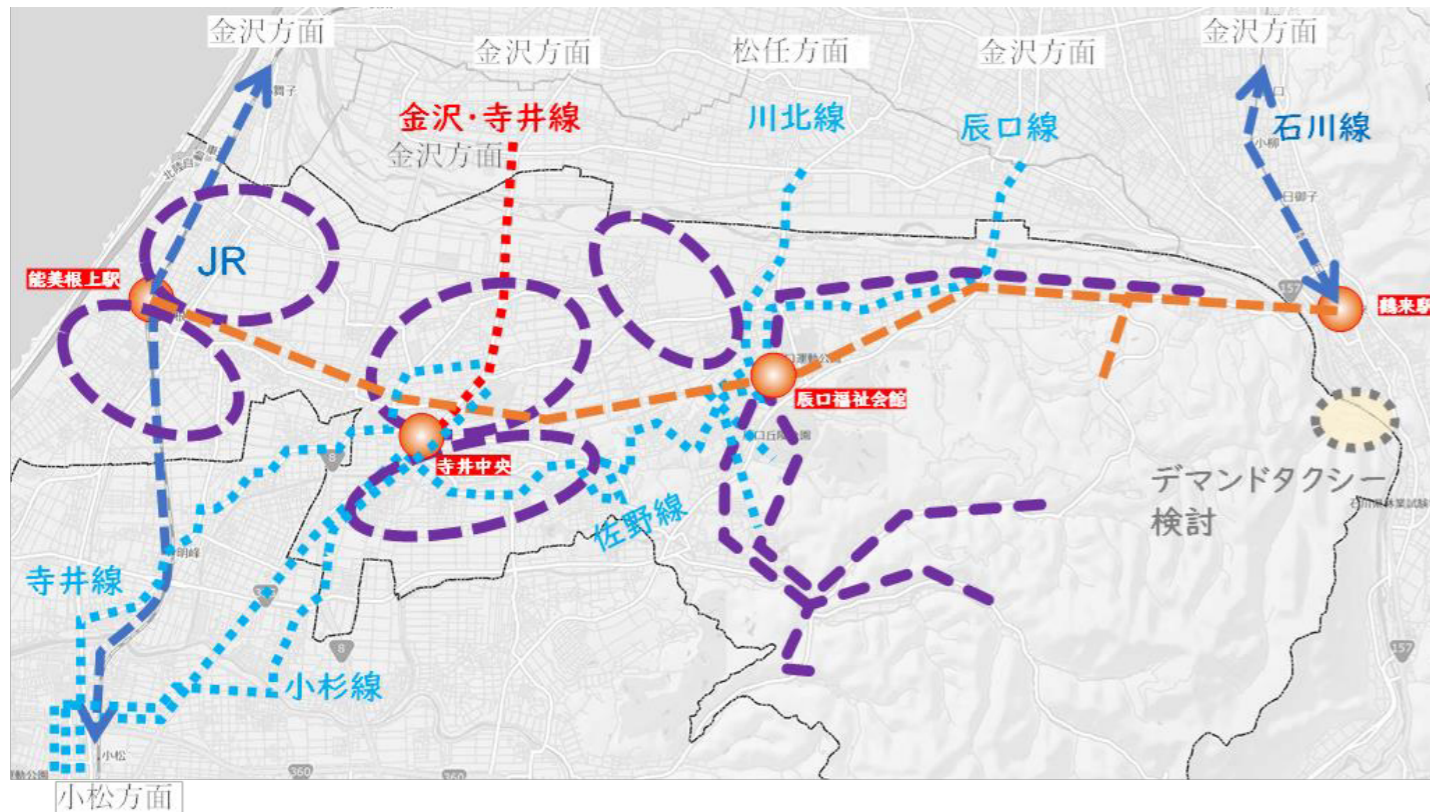


地域交通の将来像

金沢、小松方面へ繋がる南北軸（鉄道ネットワーク、広域バスネットワーク）と市内東西を結ぶ東西軸（主要バスネットワーク「のみバス」連携ルート）を網目状のメッシュ型のネットワークとし連携を強化するため、コミュニティバスの再編や結節機能の強化などを行い、公共交通による通勤通学や日常生活、観光交流などのアクセス性の向上を図ります。市内の通院や買い物など日常交通は「のみバス」循環ルート（循環バスネットワーク、地域交通ネットワーク）の周回所要時間短縮やルート再編により、利便性の向上を図ります。

位置づけ	路線名	運行態様	実施主体	確保維持策
鉄道	JR 北陸本線、北陸鉄道石川線	路線定期運行	JR、北陸鉄道	交通事業者と連携
広域バス	金沢・寺井線		北陸鉄道	確保維持事業（幹線補助）
広域バス	寺井線、川北線、辰口線、小杉線、佐野線		北陸鉄道	交通事業者と連携
地域内バス	連携ルート（日中）		能美市（民間委託）	確保維持事業（幹線補助）
地域内バス	循環ルート（根上、寺井、高座方面）		能美市（民間委託）	地域公共交通計画により
地域内バス	循環ルート（岩本・坪野・鍋谷方面）	能美市（民間委託）	確保維持を図る	
タクシー			タクシー事業者	交通事業者と連携



計画の推進・達成状況の評価

●計画の推進体制

計画の推進は「能美市地域公共交通協議会」が行います。

●達成状況の評価

計画期間の事業実施状況の進捗を管理し、目標達成状況を評価します。

能美市地域公共交通計画【概要版】

計画の趣旨・位置付け・区域・期間

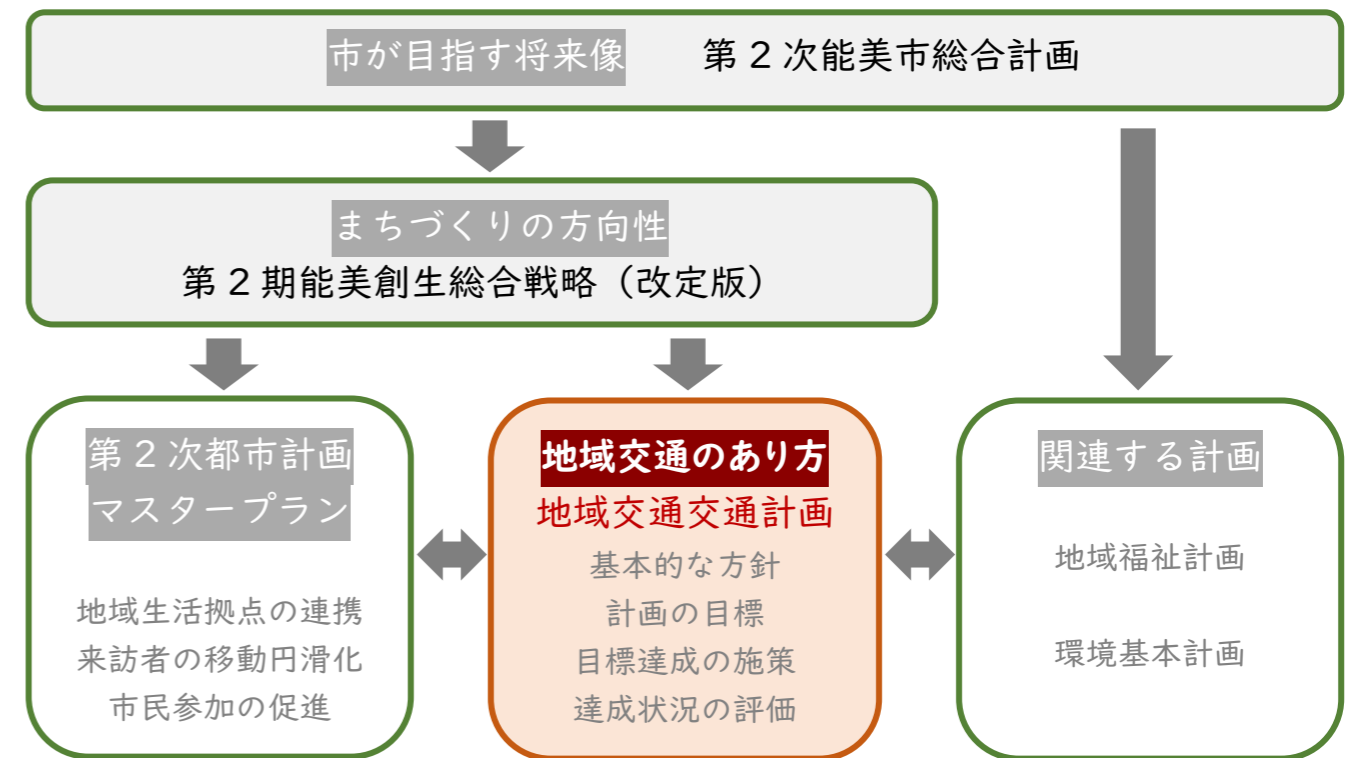
●計画の背景と目的

能美市では、人口減少や少子高齢化が進展する中、市民の日常生活や社会生活が円滑に営まれていくためには、基幹となるバス路線を維持するとともに、コミュニティバスも含めた利用実態や移動ニーズを調査することで、市民が安心安全に日常の移動が確保できるよう、市民と協働で運行計画の策定や改善の検討を行っていく必要があります。

また、コロナ禍にあって公共交通の経営環境は厳しい状況にありますが、2024年春には北陸新幹線県内全線開業も迫っており、通勤通学やビジネス、観光等の受け入れ機能の向上を図っていくため、鉄道・バス・タクシー等の交通サービスの連携強化や市内観光地への二次交通など交通ネットワークのあり方について調査し、地域の活性化につなげていく必要があります。

このような状況を踏まえて、市内の地域交通の現状や課題を把握し、地域特性やニーズに応じたみんなで支え合う持続可能な地域交通を目指し、地域の関係者の連携・協働のもと、「能美市地域公共交通計画」を策定し効果的な実行につなげるものです。

●計画の位置付け



●計画の区域：能美市の全域

●計画の期間：令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の5年間

地域交通プランの基本方針

●計画の役割・理念

【計画の役割】

- 1 地域住民の移動手段の確保
- 2 まちづくりと連携した地域交通網の構築
- 3 効率的かつ持続可能な交通手段の転換
- 4 地域とともに支える地域交通の推進

【計画の理念】

『地域共助』の取組みに即ちその磨きをかけ、
みんなで支え合う地域交通（もっと便利に）の実現

●計画の基本方針

基本方針1

南北軸（鉄道、路線バス）、東西軸（連携バス）の
メッシュ型ネットワークの強化・連携

基本方針2

コミュニティバスの持続可能な進化

基本方針3

新技術、新サービスを活用したDXの推進

●計画の目標

目標1 地域交通利用者数

R1年度 68万人 → R9年度 73万人
(14.9万人) (19万人)

※鉄道および路線バス、コミュニティバスの延べ利用者数。
なお、()内書きはコミュニティバス利用者数

目標2 コミュニティバスの収支率

R1年度 15% → R7年度 19%

目標3 地域共助による移動問題解決の取組数

R4年度 6団体 → R9年度 12団体

目標を達成するために行う事業および実施主体

基本方針	施策	事業	計画期間		実施主体
			短期（R5～7年度）	中長期（R8～9年度）	
【方針1】 南北軸（鉄道、路線バス）、 東西軸（連携バス）の メッシュ型ネットワーク の強化・連携	北陸新幹線小松駅への アクセス性確保	北陸新幹線小松駅への新交通サービスの検討	地域限定のデマンドタクシー導入	地域限定のデマンドタクシー拡大	能美市、タクシー事業者
	バス待ち環境の充実	バスシェルターの整備	乗換結節点など順次整備		能美市、北鉄白山バス
		路線案内の見直し	能美根上駅の路線図の見直し	コミュニティバスの名称の検討	能美市
	リソースの総動員	タクシー事業者の活用	和佐谷地区のタクシーチケット制導入	コミュニティバスの再検討に合わせた デマンドタクシーの検討	能美市、タクシー事業者
		大学などスクールバスの活用	市民への利用PR		能美市、JAIST
		のみ地域力強化支援ファンドの活用拡大	交付金助成団体数の拡大	交付金助成団体数の拡大	地域住民、能美市
	レンタカー、カーシェアの活用		“所有”から“使用”への取組み推進	能美市、JAIST、交通事業者	
【方針2】 コミュニティバスの 持続可能な進化	コミュニティバスの利 便性向上	循環ルートの見直し	ルートの見直し検討、本格運行	効果検証、適宜見直し	能美市、北鉄白山バス
		連携ルートの見直し	ルートの見直し検討、本格運行	効果検証、適宜見直し	能美市、北鉄白山バス
		観光ルートの見直し	ICOCA 端末の導入検討	ルートの見直し検討、本格運行	能美市、北鉄白山バス
	交通不便地域の解消	ルートの変更・新設	ルート再編の検討		能美市、北鉄白山バス
	収入源の確保	バス停命名権、バス車内広告の検討		事業内容の検討、実施	能美市
【方針3】 新技術、新サービスを 活用したDXの推進	キャッシュレスの推進	定期券、回数券のモバイル化検討	早期実施	デジタル地域通貨の検討	能美市
		ICOCA など決済方法の集約	全国的な動向を見ながら検討、実施		JR 西日本、北鉄白山バス、能美市
	バス車内での三密対策	「のみバス GO!」を活用した弾力的な運行	通勤通学時や降雨降雪時、イベント時 の増便検討		能美市、北鉄白山バス
	都市のスマート化対応	移動式車両店舗、オンライン診療などの検討	技術革新の動向を注視しながら検討		能美市
	バスの定時性の向上	PTPS（公共車両優先システム）		実証実験、効果検証しながら本格導入	石川県警、能美市